

第 10 章 NPO 法人子ども達の環境を考える ひこうせん

～参加者の主体性と組織の柔軟性：多様な事業展開を支える二つの鍵～

はじめに

NPO 法人「子ども達の環境を考える ひこうせん」(以下、「ひこうせん」と表記)は、岡山県備前市¹⁾を中心に、子育てに関するさまざまな活動を行っている団体である。この団体は、「全ての子ども達の幸せを願い、子ども達やその周囲の大人たちが心豊かに育ち合うために必要となる環境づくり」²⁾を目的としている。その活動内容については後に詳述するが、対象者、活動場所、活動時間、いずれの点についても多様な事業を展開している。小さなサークルとして展開される子育て支援活動が多い中、NPO 法人として、多種多様な事業を実施する「ひこうせん」は、どのような経緯でその活動を維持・拡張してきたのであろうか。

そこで以下では、2006 年 9 月 1 日に「ひこうせん」代表理事である赤迫康代さん、副代表理事である三宅恵美さん、理事である友光悦子さんの 3 名に行った聞き取り調査の結果や、「ひこうせん」発行のニュースレター「そらいろめーる」等の資料を用いて、「ひこうせん」の活動の経緯及び現在の活動状況を明らかにすることとする。

1．活動の経緯

代表理事の赤迫さんによれば、「ひこうせん」発足のきっかけは、絵本の読み聞かせ等のボランティア活動や自らの子育て体験の中で、子どもたちが集う場がない、という問題に気づいたことだという。備前市には児童館がなく、市に設置を打診するにしても、相応の実績が必要であるとのことから、読み聞かせや PTA を介してつながりのあったボランティア仲間 14 名が集まり、2001 年 8 月に、「ひこうせん」を発足させた。発足当初は「あおぞら広場」「わんぱく広場」「にこにこ広場」の 3 つの事業が中心であり、親子の広場づくりから活動がスタートした。広場事業を展開していく中で、広場だけに限らずさまざまなニーズがあることを知り、より幅広い活動を展開するために、2004 年 1 月に NPO 法人として認証を受けた。

「ひこうせん」発足当初の中核メンバーは、幼稚園から小学校の子どもを持つ親たち、つまり「『わが子』育て」としてスタートした活動ではあったが、子どもが成長したあとも、活動は継続して続けられてきた。その背景には、さまざまな活動の中で自分の子どもに限らず、子どもを取り巻く環境を改善していくことの必要性を感じたことがあるようだ。

2．運営資金・運営組織

2006 年 9 月 1 日現在の会員数は 106 名である。会員は活動への関わり方によって、3 種類にわけられており、正会員：運営に関わり参画する(年会費は 1500 円)、一般会員：活動に参加したり協力したりする(年会費は 1200 円)、賛助会員：運営を側面から支える(年会費は個人 1 口 1000 円、団体 1 口 5000 円)となっている。会費は 1 年間有効で、毎年、期限の約 1 ヶ月前に継続の手続きを行うこととなっている。会員になると、季刊のニュースレター「そらいろめーる」が届けられるほか、子育て講座の割引価格での受講、子育て講座への申し込みの優先的な受付などの特典がある。

「ひこうせん」の運営は主に、各事業の参加費によってまかなわれている。参加費の上限は

300 円に設定されており、それは、出来るだけ沢山の親子が参加できるようにとの意図によるものである。参加にあたっての障害をなくすという点から考えれば、参加費を無料にするという選択もあるように思われるが、事業・プログラムに主体的に関わる、という意識を参加者側に喚起する意味もこめて、出来るだけ無料に設定せず、小額であっても参加費を徴収しているとのことであった。なお、各種会員から集めている会費は、ニュースレターの印刷・発送や消耗品の購入に充てられている。

後に紹介するさまざまな事業の運営は、上述のことからもわかるように、正会員（2006 年 9 月 1 日現在、40 名）を中心に、各々の事業についてチームを編成する形で行われている。チームの構成人数は事業によって異なるが、おおよそ 4 名～10 名程度で構成されている。なお、個々の事業ではなく、「ひこうせん」自体の運営を担う組織としては、理事会があり、現在は 8 名の理事によって構成されている。理事会の役割は、各事業のチームのマネジメントをすることであり、各理事はそれぞれに担当事業（チーム）を持っている。会員のニーズから新しい事業が生まれることもあり、その場合、事業を実際に展開するかどうかの決定は理事会に諮られることとなっている。

3. 多種多様な活動内容

～より多くのニーズに応える～

「ひこうせん」は発足以来、活動の対象年齢および内容を拡大しており、現在展開されている事業は多岐にわたる（表 1 を参照）。それらの事業をその目的・対象等によって大きく区分すると、子どもと大人の交流事業、子育て支援事業、自然体験活動、親育ち事業、子ども参画サポート事業、文化活動、の 6 つに分けることができる³⁾。



写真：「田んぼの学校」のひとコマ

表 1 「ひこうせん」で現在実施されている事業一覧

	事業名	概要
子どもと大人の交流事業	わんぱく広場	放課後時間の交流活動
	にこにこ広場	休日における各種体験活動
	Tryあぐら	子どもも大人も交流できるスペースの設置、開放
子育て支援事業	あおぞら広場	乳幼児の親子の公園遊び
	かんがるー広場	乳幼児の親子の室内遊び
	学童保育のサポート	長期休暇における学童保育
	子育て情報誌発行	「そらいろめーる」[季刊]、親子カレンダー[月刊]
自然体験活動	田んぼの学校	米作りを通じた自然体験
	プレーパーク	プレーパーク日体験、冒険遊び場備前プレーパーク開催
親育ち事業	子育てセミナー	参加者のニーズに応じたワークショップ等
	「完璧な親なんていない！ノーパディーズ・パーフェクト」プログラム	親教育プログラム
	子育てネットワーク研究会	事務局活動
子どもの参画サポート事業	子どもリーダー「ふれんど」	子どもの自主的な活動支援
文化活動	読み聞かせ講座	読み聞かせ講座の開催、読み聞かせ活動の充実等

（「ひこうせん」発行のパンフレット及び各種報告書を参考に筆者作成）

活動の経緯でも触れたように、開始当初の「ひこうせん」の事業の中心は「あおぞら広場」「わんぱく広場」「にこにこ広場」であった。その時点に比べると、事業の対象年齢（乳幼児から中高生、大人まで）、実施場所（室内遊びからプレーパークに代表される外遊びまで）、そして目的（親子の遊び場の確保から親の学習や大人と子どもの交流まで）において、多様化が進んだことが表1から見てとれよう。このような事業拡大の背景には、（主に会員から出される）子どもの育ちをめぐる様々なニーズを柔軟に取り入れてきたことがある。自然体験活動のひとつ、プレーパークを例に挙げると、そもそもこの事業に取り組むきっかけとなったのは、ある会員が冒険遊び場に興味を持っていたことであった。その会員を中心としてプレーパーク実行委員会が組織され、プレーパークは開催に至り、「ひこうせん」も参加団体の一つとなった。このことは、「ひこうせん」の内部においても子どもたちの「遊び」について話し合い、考えるきっかけとなったとのことであった。このように、会員がその興味・関心に基づいて始めた取り組みもまた、子どもの育ちをめぐる新たなニーズの表れとして捉え、「ひこうせん」の事業の一つとして柔軟に取り入れてきたことが、結果として事業の多様化を促したものと考えられる。

4. 親を育てる 親育ち事業への着目

ここでは、紙幅の都合上すべての事業を取り上げることは出来ないが、「ひこうせん」の活動の中でも、近年その重要性、必要性から着目されている親育ち事業について若干の説明を加える。親育ち事業として展開されているのは、「完璧な親なんていない！ノーバディーズ・パーフェクト」プログラム（以下、NPプログラム）そして子育てセミナーである。

NPプログラムは、昨今、子育て支援関係者の間で注目を浴びているカナダで開発された親教育プログラムであり、親が自分の長所に気づき、子育てに対して前向きな方法を見出せるよう手助けすることを目的としている。プログラムは参加者が抱えている悩みや関心のあることを中心に据えて、ファシリテーターという専門の訓練を受けた者を交えて行われる。

「ひこうせん」では、2名のファシリテーターと14名までの決まったメンバーで、毎週一回2時間×8週間で行われるものをひとつのプログラムとしており、2005年度は5月・9月・1月の三度にわたって開催された。NPプログラムは子育てに関する親の知識量を増やすことよりも、親が自信をつけることや、プログラムに参加した親たちがお互いをサポートし合えるような関係を構築することを重視している。これまでに開催されたプログラムでファシリテーターを務めた理事の一人は、プログラムに参加



上写真：NPプログラムの様子

下図：NPプログラムについての記事「そらいろめーる」2006夏号（2頁）より

特集

【特集】『Nobody's Perfect』 ～完璧な親なんていない～

完璧な人間などどこにもいません。完璧な親や完璧な子どもなど、存在しないのです。ですから大事なのは、可能なかぎりベストを見つけることです。そして必要なときには、素直に助けを借りることです。

はじめから一人前の親などいません。皆素直に助けを借りながら親になっていくのです。

このプログラムは、あなたにとって親になるということについて必要なこと、知りたいことすべてを学んでほしいと思います。しかし、親が自分の長所に気づき、子育てに対して前向きな方法を見いだせるよう手助けすることができます。

【プログラムの概要】
 Nobody's Perfect プログラムは、0歳から5歳までの子どもをもつ親を対象に、参加者がそれぞれに抱えている悩みや関心のあることをグループで話し合いつつ、必要に応じてテキストを参照して、自分にあった子育ての仕方を見つけることができます。同年齢の子どもを持ち、共通の興味や関心をもつ人々と出会うことができる安心できる場を提供するプログラムです。プログラムは、10人前後のグループで、1回2時間、週1回で8～10回連続で行うことを基本とします。研修を受けたファシリテーターが、プログラムを準備・企画・実施し、参加メンバーの話し合いと交流を円滑にするための役割を担います。このプログラムの目的は、親が自分の長所に気づき、得意で幸福な子どもを育てるための前向きな方法を見出せるよう手助けすることにあります。Nobody's Perfect プログラムは、また、危機的な状況や深刻な問題をかかえる家庭を対象としたプログラムではありません。

＜岡山県内で実施している機関＞
 ● NP法人 子ども達の環境を考える「ひこうせん」 ●（18年度は4～6回実施する予定です）
 ● サンケイニッパ（専属の保健師さんがファシリテーターです）
 ● さくらんぼ保育園（園長先生がファシリテーターです）
 機関について詳しく知りたい方は「ひこうせん」事務局へお問い合わせください（0669-60-9366）

＜参加者の声＞
 ○ 子どもから少しの時間離れることで冷静に物事を考える時間が持てました。
 ○ 心が軽くなり、優しくなれたように思っています。今の子育ての時間がさらに楽しく大切に思えるようになりました。
 ○ ひとりではなく、周りにはたくさん支えてくれる人がいると改めて感じられました。 など

することによって親たちが、より主体的に「ひこうせん」の活動に参加する存在になっていくことを指摘していた。その具体的な例といえるのが、子育てセミナーであろう。子育てセミナーは、NP プログラム修了者の母親たちが中心になって企画した、自分たちが関心のあるテーマについて学ぶための託児つきのセミナーであり、2005 年度は「2 歳まではビデオを消してみませんか」「子どもにとっての睡眠とは？」というテーマについてワークショップ形式で開催された。NP プログラムが親の自信獲得や親同士の関係構築を重視していることに鑑みれば、「ひこうせん」での NP プログラムの参加者が、プログラム終了後も自主的に集まりをもったり、子育てセミナーの企画に参加しているということは、そのねらいにかなっていると言えよう。

5 . 多様な事業の展開を支えるもの

上述の如く、「ひこうせん」は多様な事業を展開してきた。これらの事業の展開を支えてきたものについて、ここで少し整理してみよう。

(1)「お客さん」ではなく、主体的な参加者として

「ひこうせん」における多様な事業の展開を支えているのは、第一に、参加者の主体性である。運営の中核組織である理事会はわずか 8 名によって構成されており、非常に小さいが、それでも様々な事業が実施できているのは、実働部隊である各チームがそれぞれに独立して活動ができる組織だからであろう。一般会員は「運営に参画する」こととなっているが、「運営に参画する」と一口に言っても、その方法は人により異なる。しかし、自分に出来ること、出来る範囲で、運営に関わっていくことが、ただ単に「お客さん」としての参加ではなく、主体的な参加に繋がるのである。このように、参加者の主体性を尊重し、重視する姿勢は先述のとおり、参加費の徴収といった場面においても見て取ることができよう。各会員が主体的な参加者として行動することで、ニーズの発掘及びその事業化が極めて柔軟かつ機動的に行えることになる。

(2) 様々なニーズに応える柔軟性

「柔軟性」は、これまでの「ひこうせん」の発展を説明付けるキーワードである。会員の中で生まれた新たな取り組みをニーズとして拾い上げ、新たなチームを編成することで一つの事業に育てていく。大きな目標が設定されて、そこから演繹的に事業内容が導き出されるのではなく、会員の中で発見された新たなニーズを出発点として、それを柔軟に事業計画に取り入れていくスタイルをとってきたからこそ、「ひこうせん」が展開する事業はここまで多様たりえているものと考えられる。また、事業内容に限らず、「ひこうせん」の運営組織もまた「柔軟性」ということばで特徴付けることができよう。各チームが、それぞれの事業の運営に係る実務を担い、理事会はあくまでもそれらのチームをマネジメントする組織にすぎない。各チームが、自分たちのやりたいことをやりやすいようにすることが、「ひこうせん」の組織運営においては重視されている。したがって、例えば、親子カレンダー発行にあたっては、原稿を作成する時点まではチームのメンバーが担当するが、発行にあたっての資金集め等の作業は理事が行うことになっている。このような、各チームと理事会の間での役割分担は、確定したルールに則って行われるのではなく、そのチームが動きやすいように、その負担を軽減するという観点から柔軟に行われている。

6 . 人と人をつなぐ ~ 「子育てネットワーク研究会 in 岡山」への参加 ~

「ひこうせん」は現在もなお、次々と新しい試みに着手している。ここでは、その中でも今

後の事業展開にとって重要な意味を持つと思われる、「子育てネットワーク in 岡山」の動きを取り上げておこう。「子育てネットワーク in 岡山」とは、「子育てネットワーク研究会・岡山⁴⁾」が2004年以降毎年開催している、子育て支援関係者の交流会である。「ひこうせん」理事の多くがその実行委員を務めている。2004年は一日限りであったが、2005年以降、一泊二日の日程で、大人プログラムと子どもプログラムが用意されており、親子そろって参加して楽しめる内容となっている（内容は、下図を参照）。なお、「子育てネットワーク研究会・岡山」発足の背景には、2003年に福岡で開催された「子育てネットワーク研究会」の研修会に「ひこうせん」代表理事である赤迫さんが夫婦で参加したことがある。一泊二日の研修会を通して、九州で子育て支援に携わっている人々の様子に影響を受け、岡山でもこのような、お互いに学びあい、次につなげる場を作ろうと考えたのがきっかけとなった。このような経緯から、「ひこうせん」はこの「子育てネットワーク in 岡山」に実行委員会の中核として関わっている。

子育てネットワーク in 岡山の参加者(及びパネリスト)は、研究者、実践者、行政担当者、そして子どもを持つ親たち、と多様である。「子育てネットワーク in 岡山」が、単なる知識習得の場や一度限りの単発イベント的な場ではなく、こういった多様な人々が出会い、意見を交換し、人と人が次につながる関係を構築する場としての意味をもっていることが、報告書によせられた参加者の声からはうかがえる。ひとつの組織・団体での実践を、その場限りのものにしてしまうのではなく、同じような志、目標を持つもの同士が集い、語り、情報を交換することによって、限られた物的資源・人的資源をより有効に活用することが可能になる。この人と人とのつながりを活かすことによって、「ひこうせん」は今後更なる事業を展開していくにあたり必要となる物的資源・人的資源を確保することができると思われる。

子育てネットワーク in 岡山 2005 日程表

■12月17日(土)

時刻	大人プログラム	子どもプログラム	
		Aコース (0-5歳)	Bコース (小学生以上)
12:00	一般受付	保育	みんな集まれ!
12:30	開会式		
13:00	基調講演		
15:00	学習会の発表		選択式プログラム
15:30	分科会		①野外活動②まが玉づくり③クリスマスクラフト
17:30	夕食・入浴	食事・入浴	食事・入浴
18:00	交流会	おしゃべりサロン	親子で夕べの音楽会(交流会)
18:30	情報交換会		親と同伴行動
22:00	就寝など		夜のお楽しみ会
			就寝

■情報コーナー
参加者所属団体の案内チラシなど配布資料を設置するスペースを設けています。お持ちいただいた資料をご自由に設置ください。(受付に一声お掛けください)あまった資料は、必ずお持ち帰りください。

■12月18日(日)

時刻	大人プログラム	子どもプログラム	
		Aコース (0-5歳)	Bコース (小学生以上)
7:45	朝食		
9:00	一般受付	保育受付	
9:30	分科会報告	保育	うどん打ち体験
10:00	シンポジウム		
11:20	リレートーク		ふりかえりの会 また遊ぼうね!
12:20	閉会式		
	保育報告・アンケート記入		
12:30	保育引取	保育終了	保育終了

■荷物について
荷物の取り換え等がおきないよう、記名等のご配慮おねがいいたします。貴重品は、必ずお手元にお持ち下さい。

出典：子育てネットワーク in 岡山 2005 実行委員会『岡山県パートナーシップ推進事業／子育てネットワーク研究交流会 子育てネットワーク in 岡山 2005 開催資料』子育てネットワーク in 岡山 2005 実行委員会、2005年

7. 活動をしていく上での問題点

最後に、活動をしていく上での問題として指摘された点について述べる。一番の問題点として挙げられたのは、場所にまつわる問題であった。現在、「ひこうせん」には独自の拠点がないため、事業の実施にあたっては、その都度、場所の確保が問題となる。子どもが思いっきり遊ぶことが出来る、という条件を満たす場所は年々減少しており、会場費とともに大きな問題である。また、場所を確保するにあたっては、「どこ」で開催するかも、開催場所へのアクセスのしやすさという点から検討しなければならない。たとえば「ひこうせん」は、地理的要因による影響を最小限にとどめるために、あおぞら広場の開催を二つの地域(日生と備前)で交互に実施するなどの工夫をしている。但し、拠点が無いことは不便な反面、色々な場所で事業が開

催できるという自由さもある、との肯定的な捉え方もあるようだ。また、場所の問題とも関連しているが、子どものわんぱくを温かい目で見守ってもらう、という状況を作り上げるまでには時間を要することも、問題点として挙げられた。

おわりに

「ひこうせん」理事の方に聞き取り調査をして、初めに抱いた感想は、展開されている事業の数・規模に比して、その運営の中核組織（理事会）が極めて小さいことに対する驚きであった。しかし話を聞くにつれ、中核組織の小ささもまた、「ひこうせん」の事業の多様性を支えている一つの重要な要素であると感じるに至った。「ひこうせん」は、中核組織を小さくし、各事業をチーム毎に分担して柔軟な運営体制をとることで、小さな仲間グループとしてまとまってしまうのではなく、常に外部に対して、また、主体的に参加をしようとする新たなメンバーに対して、組織が開いてきた。それこそが発足以降、「ひこうせん」が順次拡大をとげてきた秘訣のように感じられる。子育て支援活動は、その後継者育成、引継ぎの難しさがしばしば指摘されるが、NP プログラムやその他の取り組みにおける、参加者の主体性を重視し育む姿勢は、この問題を乗り越える一つの策を示しているように思われる。

（相良亜希）

<注>

- 1) 2005年3月に旧備前市、日生町、吉永町が合併し、現在の備前市となった。
- 2) 子育てネットワーク in 岡山実行委員会「平成16年度 子育てネットワーク研究交流協議会岡山集会 子育てネットワーク in 岡山 開催資料」子育てネットワーク in 岡山実行委員会、2004年、p.31。
- 3) 「ひこうせん」はさらに、活動内容として 青年の居場所づくり、を挙げているが、これは調査時点において計画中の事業であったため、ここでは6つに区分して記述した。
- 4) 2004年2月、岡山県周辺地域を中心に、子どもおよび子育てに関心のある人が集まって発足したネットワーク組織。

<参考資料>

- ・ 特定非営利活動法人子ども達の環境を考える「ひこうせん」平成18年度第3回総会要項」2006年
- ・ 子育てネットワーク in 岡山実行委員会「平成17年度 岡山県パートナーシップ事業ノ子育てネットワーク研究交流会 子育てネットワーク in 岡山2005報告書」、子育てネットワーク in 岡山実行委員会、2006年